

No. 11
30 Apr. 2006

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

発行 NPO法人日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成18年4月30日

編集 NPO法人日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-9-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

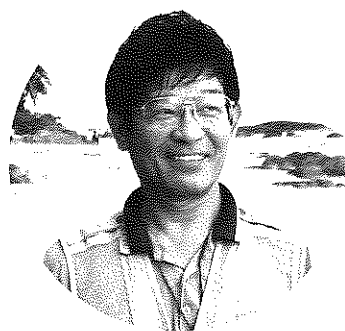
パプアニューギニアの精霊たちが鶴ヶ島にいる!

ポリライブ/南條 憲二(当協会会員)

鶴ヶ島ってどこ? そう、埼玉県中部の小さな市です。この小学校の空き校舎には、約10年前に篤志家が市に寄贈してくれた、パプアニューギニアを中心とするオセアニアの民族造形美術品が、1725点もあるのです。世界的なレベルで高く評価されるものも多数あります。

市の委託を受けて、市民グループ・ポリライブは、毎年2月に、公開展示とともに講演会や子供たち向けのワークショップを行ってきました。

ポリライブのメンバーはみんな、これらの民族造形美術品、とりわけ精霊を表現した彫像や仮面に初めて対面した時、その強烈な力強さとそれらを造った人々の優れた美意識に圧倒されました。展示会場に来てくださった多くの方々も、アンケートに、我々と同じような感動を受けたことや、これらは人類の貴重な文化遺産として次代に継承されるべきだと書いてくださっています。去年は「愛知万博」でも、展示の機会を得ました。

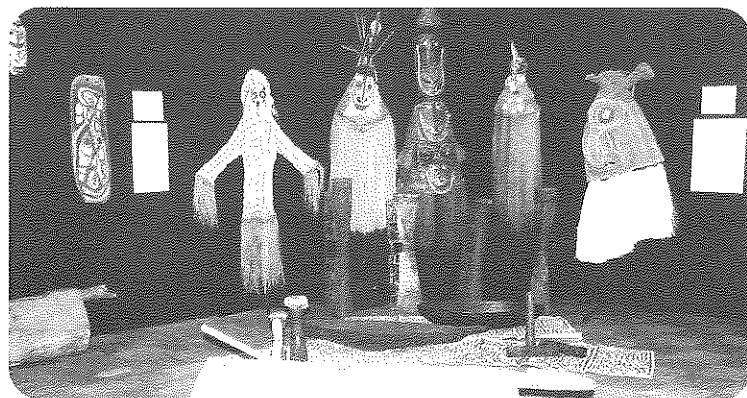
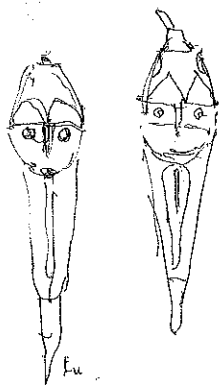


筆者

ポリライブのメンバーは次々と、お小遣いを貯めて、彫像や仮面のふるさと、憧れのパプアニューギニアを訪問しています。現地を体験した仲間たちは異口同音に、豊かな自然環境とそこでのびのびと生を謳歌する動植物たち、人々の暖かいまなざし、とりわけ子供たちの驚くほど透明な眼の輝きに感動したことを熱っぽく語ります。

残念ながら、我々が支援してきたパプアニューギニアの民族造形美術品は今、市の苦しい財政状況の中で、その保存も有効活用も、大きな岐路にさしかかっています。「ごらくちょう」を手にしている皆さん、パプアニューギニアの精霊たちが、鶴ヶ島で、皆さんのお越しを待っていますよ!

残念ながら、我々が支援してきたパプアニューギニアの民族造形美術品は今、市の苦しい財政状況の中で、その保存も有効活用も、大きな岐路にさしかかっています。「ごらくちょう」を手にしている皆さん、パプアニューギニアの精霊たちが、鶴ヶ島で、皆さんのお越しを待っていますよ!



公開展示会「南の精霊展」風景

東京国際大学PNG研修プログラム

夢と感動を育むPNG研修プログラム

平山 龍水(国際関係学部長)

東京国際大学がパプアニューギニアに毎年20名の学生を派遣し、現地の若者たちと一緒に汗を流し、学び、国際協力への力と精神を培うプログラムを始めてから間もなく三年になります。エコテック・センター(オイスカ)での稲作・畜産・野菜栽培など有機農法支援と環境保全の活動、小学校訪問・植樹、さらに、戦跡地訪問による旧日本軍戦没者への慰霊などがプログラムの中心ですが、今年も新しい代表団を9月に派遣します。

過去二回、学生たちは現地の若者たちと一緒に汗を流し、学び、友好を深め合ってきましたが、その成果は実に大きい。PNGの若者たちとの出会いは新鮮で、躍動的でした。学生たちは開発支援や環境保全の活動に参加し、国際協力の尊さを学び、感動を味わいました。戦跡地訪問では戦没者を追悼し、戦争と平和について深く考える機会も得ました。かれらはこうした活動の成果を大学祭等で報告し、共感と支持を広げることに成功しています。

昨年2月のソマレ首相訪日に際しては、歓迎レセプションの席上、学生代表が活動の成果を直接首相に報告するという栄誉を担いました。PNGプログラムは、いまや、講義やゼミとつなぐ国際教育プログラムの一環として、教学上きわめて重要な位置にあります。

同プログラムの成功は、日本・パプアニューギニア協会はじめ多くの方々の暖かい援助と協力の賜物です。本年5月にはソマレ首相が本学を訪れ、講演をされます。本学からは首相の学術上・行政上の功績を称え、名誉博士学位を贈らせていただきます。これを機に、日本・PNG両国民の友好がさらに深まり、平和で繁栄したアジア太平洋地域社会の実現に大きく貢献されることを心より祈念しています。

PNGで学んだ汗と感動の一週間

高橋 真由美(学生代表団団長)

日本から南へ約6時間、飛行機を降りると、眠気も疲れも吹っ飛ばすような青い空が広がり、私の胸は高鳴りました。エコテック・センターでの活動は、炎天下の稲刈りや草取りなど体力的にきつい仕事もありましたが、思ったより楽しいものでした。日本のように稲刈機や草刈機があるわけではなく、全て手作業です。それなのに楽しい記憶しか残っていないのは、一緒に汗を流した現地の青年たちとの会話や弾けんばかりの笑顔のお陰です。

オイスカ・エコテック・センターにて



シクト小学校の生徒達と……

研修で私は開発援助に携わるとても重要なことを学びました。それは国や地域に合った援助ができなければ、環境破壊につながるということ。どんなに重労働で手間がかかっても、手作業でやれることはやる、今のパプアニューギニアに何が必要かを考えた支援ができなければ、あの美しい「地上最後の楽園」は失われてしまう。開発援助や環境保護に今後どう関わっていくべきか、貴重な知識と体験、沢山のかけがえのない仲間を得ることのできた一週間でした。

ありがとう、パプアニューギニア!

伊藤 奈美(国際関係学部3年)

開発と自立をモットーに設立されたオイスカ・エコテック・センターでの研修で、私は開発支援の問題とその現実について学びました。共通語であるピジン語、また、民族文化や歌、踊りなどを教えてもらい、PNGの若者たちと交流することで異文化を学ぶこともできました。この国での1週間で一番印象的だったのは現地の人々の笑顔です。かれらは、嬉しいとき、楽しいとき、盛り上がっているとき、幸せなとき、きまって素晴らしい笑顔を見せます。また、どんなに暑くても、仕事辛くても笑顔をやささない。

私たちは日本という住みやすく便利で、近代的な国に住んでいますが、生活の代償に大切なものを忘れかけていたのかもしれませんが。そんな大切なことに気づかせてくれたパプアニューギニアとそこに住む人々の笑顔は決して忘れられない。ありがとう、パプアニューギニア。大好きです!!



SERIES

パプアニューギニア 蘭紀行 ①

伊東 浩(当協会会員)

今まで、パプアニューギニアの数少ないガイドブックの中で、世界的に注目されているにもかかわらず、蘭についての説明があまりにもなされてなかった。残念に思っていると、今回この場をお借りして、私が2000年から年2回ほどパプアニューギニアの各地を回り、高地性“蘭”を写真に納め、自生地を肌で感じてきた体験を紹介させていただけることとなった。

昨年は、東京ドームで開かれた“世界らん展”でパプアニューギニアの代表的な蘭、デンドロビウムカスバートソニーが見事グランプリを獲得した。✓



Mt. Hargen 3,834m

この国の特徴は、セスナや車で移動できない地域がまだ沢山残っており、人間が踏み込んだことのない複雑な地形を利用して、ひっそりと雲霧林に“森の妖精”達が咲いている。しかし、ポートモレスビーの植物園、レイの植物園など有名であるが、いずれも低地生(Lowland)蘭が主体で、高地性(Highland)蘭は見る事が出来ない。それは、植物園が標高20m前後にあるため、残念ながら冷房温室など費用や維持費がかかるからだろう。

デンドロビウムの原種は900種前後有ると言われているが、その内、約350種がニューギニア島にあるといわれている。これからは新種のデンドロビウムが発見されることでしょう。

我々、日本では鉢の中でしか見たことがない蘭達が、いかに大自然の中で過酷な自然環境で生育しているのか、この目で確認し、又、自分の趣味である蘭達と付き合っていくことができるか、この国を愛する最大の理由である。

それでは、これから、まだまだ知られていない高地性デンドロビウムについて、“蘭紀行”に出発致しましょう。

伊東 浩(いとう ひろし)

当協会会員。定年退職後、2000年からパプアニューギニアの各地に毎年蘭の散策をしながら生態調査を行う。

2005年、エンガ州クムル・ロッジにSky Orchid Gardenを完成。2002年、藤沢洋蘭愛好会会長に就任。2002年、世界らん展組織委員、個別審査部門クラークに就任。

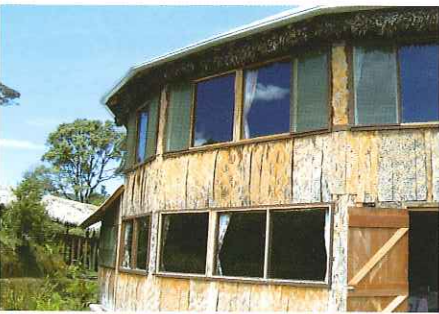
エンガ州、クムル・アドベンチャー・リゾート・

ホテルは、標高2,800mに位置し、朝は5℃前後、日中は28℃前後、数年前うっすらと雪が降ったこともあり、朝晩は暖炉を一年中焚いており、こんなところに蘭は自生している。

そんな貴重な蘭達を、現地人達は現金収入のため、雲霧林に製材機を持ち込み、無数に蘭が着生している大木を無



惨にも伐採している。これこそ自然破壊の始まりである。倒木に付いた蘭達は、そのままでは死んでしまう。ホテルのオーナーに頼んで、敷地内に移植して、オーキッドガーデン(Sky Orchid Garden)を昨年作り、各国のツアー客に自然の状態で咲く蘭達を觀賞してもらえたようにした。



クムル・アドベンチャー・リゾート・ホテル

新潟県と パプアニューギニア

新潟パプアニューギニア協会事務局長
鈴木 紀久代(当協会会員)

新潟県に、世界最大級のパプアニューギニアの美術工芸品の収集があるのをご存知ですか。実は、新潟県南魚沼市(旧塩沢町)には、およそ6,000点のパプアニューギニアの収蔵品を持つ今泉博物館があります。ここの収蔵品は、旧塩沢町の村長を務めたこともある、故今泉隆平さんが個人で集めたものを死去に伴い町に寄付したもので、その多彩さと数は、世界的にも類を見ない規模です。鶴ヶ島のPNGグッズの本もこの今泉さんの収蔵品です。

博物館の詳細は、
<http://www.imahaku@bh.wakwak.com>
をご覧ください。



今泉博物館の収蔵品

そして、新潟県と言えば、山本五十六元帥の出身地。私の母校長岡高校にも、遺品の一部が展示されていました。長岡市の山本五十六記念館には、パプアニューギニアで見つけた、山本元帥を最期に乗せていた飛行機の機体も、現在展示されています。

そして、もうひとつ、新潟には、新潟パプアニューギニア協会があります。パプアの子供達の学習環境の整備を目標に、細々ではありますが、毎年目標を決めて活動しています。

今年の新潟PNG協会の活動のひとつは、上記の今泉博物館のある塩沢へのツアーです。昨年度は、塩沢産業祭の折に、写真の展示をしたりPNGグッズを売ったりしましたが、その時、町の人たちのPNGへの関心が薄くて、『収蔵品をすべて処分してしまおう、と言う話まで出ている』とビームなどを買ってくださった方が話してくださいました。

そこで、何かできないかと、まずは、日本・PNG協会のメンバーに参加してもらって、皆で塩沢へ行こう!と思います。企画準備は、新潟PNG協会で行います。是非、大勢でご参加ください。

(詳細は同封のリーフレットをご覧ください。)

なんでも紹介コーナー

川口 築 (かわぐち きづき)

(本名：川口 正義)

当協会会員

日本旅行作家協会会員

1958年京都市生まれ

1981年 京都大学経済学部を卒業後、某化学メーカーに入社。

旅は、ユースホステル全盛時代に全国都道府県を全て踏破した後、ブラジル(アマゾン)、モロッコ、ジャマイカ、ベトナム、メキシコ、チェコ、ギリシャ、トルコ他世界各地に及ぶ。

また、「フレンズ・オブ・PNG」に所属し、パプア・ニューギニアでのボランティア活動に従事し、セピック川流域の伝統的木造建築物「ハウスタンバラン(精霊の家)」の保存のための現地調査に派遣された。また、1998年の津波災害(アイトペ災害)では救済のための援助を行った。

川口さんの著書



パプア・ニューギニア探訪記
川口 築著

京都に生まれ、京大時代から国内外を数多く旅してきた著者が、メーカーに勤める多忙な日々にも、自分を取り戻す旅にと計画したパプア・ニューギニア旅行。あまり知られていないところをとお選んだが、ガイドブックにもほとんど情報はなく、ホテルの確保など準備から大変。戦後生まれの著者は知らなかったが、ようやく訪れたこの地はラバウルなどのある太平洋戦争の激戦地と知る。純朴な土地の人々と交流しつつ、戦争の実情に目覚めてゆく旅の話が、ビジネスマン生活の様子を折り込みつつ語られる。

日本図書館協会推薦図書/京都新聞 書評掲載

「パプア・ニューギニア探訪記」花伝社
多忙なビジネスマンの自己啓発旅行

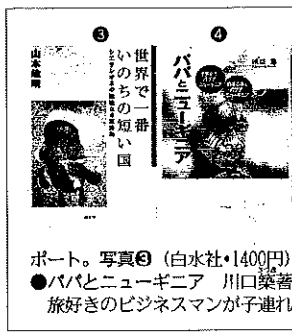
ちょっとパプアに触れてみた! APEC加盟国「遅れてきた巨鳥」パプア・ニューギニア。多忙なビジネスマンの濃縮した自己啓発の記。旅が教えてくれた未知の国パプア・ニューギニアそして日本との深い関係。戦争を知らない世代が「発見」した意外な歴史。

「パプア・ニューギニア」花伝社
精霊の家・NGO・戦争・人間模様に出会う旅

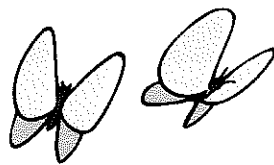
建設関係のNGO(非政府組織のボランティア)活動として、パプア・ニューギニアに派遣された著者の体験記。伝統的な儀式用木造建築物「ハウスタンバラン」の調査を中心に、太平洋戦争の傷跡にも触れる旅。

「パパとニューギニア」花伝社
*子ども達のパプア・ニューギニア
*日本の中のパプア・ニューギニア

子供たちが初めて訪ねたパプア体験記。パプア・ニューギニアを身近に感じてもらうために「小学生と幼稚園生を2度連れて行った家族旅行記」と「日本のあちこちで意外と簡単に接することができるパプア・ニューギニア」の施設や文献を紹介。特に伝統的な踊り「シンシン」のコンテスト「マウントハーゲンショー」の分析を、現在日本で最も増殖中の「よさこい祭り」と対比して紹介。



で訪ねたパプア・ニューギニア。子にとって初の海外旅行にこの地を選んだ父親は、幼少期に「多様性」の大切さを知り、「しっかりとした個性」と「他人への思いやり」を育んでほしいと願う。年間約3000人しか日本人が渡航しない未知の地の案内のほか、新潟・塩沢町立今泉博物館など、パプア・ニューギニアの美術・工芸品が観賞できる日本の施設ガイドや交流団体の紹介も充実。はらかな国が身近になる。写真④(花伝社・1700円)



◇「パプアニューギニア 精霊の家・NGO・戦争・人間模様に出会う旅」川口 築 花伝社 2000年11月
「ハウスタンバラン」と呼ばれる儀式用の木造建築「精霊の家」に残されている伝統的な柱など彫刻、壁の絵画を実態調査しているNGOの活動を中心に書かれている。セピック地方について詳しく紙幅がさかされている。PNGで避けて通れないのが第二次世界大戦での日本軍の侵攻。ウエワクでの日本軍の最後の攻防が描き出されている。精霊と慰霊の旅の記録である。

日本図書館協会推薦図書/東京新聞・中日新聞 書評掲載

産経新聞 書評掲載

事務局からのお知らせ

マイケル・ソマレ首相来日!

マイケル・ソマレ首相が来日されます。5月24日、埼玉県川越市の東京国際大学にて講演会、レセプションが行われます。詳細は先日別便でお送りしました。

お詫び

今号の「法人会員紹介」は、都合によりお休みさせていただきます。

編集後記

「なんでも紹介コーナー」を作りました。PNGで撮った素敵なスナップ写真一枚、

PNGを旅行した時の面白い小話など「ちょっと皆さんに紹介したいな」と思うものがありましたら、事務局までお送りください。いくつか集まりましたら、まとめてこのコーナーでご紹介します。したがって、このコーナーは毎号は掲載しません。(佐藤直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 PNG人 1,000円
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
*会員数 2006年3月末 法人会員/15 個人会員/115

口座加入 / 記者名 / 番号 00140-2-277582
加合先 / 日本・パプアニューギニア協会
問合せ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階
(ニューギニア航空 日本支社内)
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556
E-mail:info@air-niugini.co.jp